

再評価実施要件		○ 事業採択後 (年) ● 再評価後 (5 年) ○ その他 ()							
1 事業概要	事業名	しゅうなんりよくち 周南緑地 都市公園事業							
	事業場所	周南市大字徳山、桜木1丁目及び周陽3丁目							
	事業主体	周南市	事業方法	● 国庫補助 ○ 単独					
	財源・負担割合	● 国 50 % ○ 県 % ● 市町 50 % ○ その他 %							
	事業期間	《事業採択時 再評価時 計画変更時》 平成 元 年度 ~ 平成 34 年度 《平成29年度》							
	総事業費 (内用地補償費)	《 14,298 百万円》 (14,298 百万円 636 百万円)	既投資額 (内用地補償費)	9,423 百万円 (636 百万円)	進捗率 (用地補償費)	66 % (100 %)			
	事業目的	当公園は周南市の中央部に位置しており、住工分離による公害防止を目的とした緩衝緑地として、東・中央・西・横浜・遠石の5緑地から構成されている。 現在整備を実施している中央・東緑地は、周南市都市計画マスタープラン及び緑の基本計画(ともにH20.6)の中で、スポーツ・レクリエーション拠点として位置づけられている。また、周南緑地基本計画(H25.3)に基づき、今後においても各施設を誰もが安全に安心して利用できるよう、ユニバーサルデザインに配慮した施設整備と防災機能の強化を行い更なる魅力の向上を図っていくこととしている。							
事業内容	公園面積83.3ha(内整備面積50ha) 多目的体育館、多目的グラウンド、遊具広場、テニスコート、野球場、水泳場、陸上競技場など 残事業内容 水泳場改築更新、駐車場整備、園路バリアフリー化、陸上競技場改修								
(1) 2 社会経済情勢の変化 再評価の視点	社会的評価	都市公園が果たす役割としては、地球温暖化の防止、都市住環境の改善、都市の防災性の向上等が挙げられる。この中において、当公園は緑地を活かした整備を実施することで、温暖化防止や、工業地帯と住宅地を隔てる緩衝帯としての役割を担い、さらには市民のためのスポーツ・レクリエーション拠点としての整備を進め、住環境の改善を図ってきた。 しかしながら、供用開始から相当年経過しており、老朽化した施設の改築更新が求められているとともに、近年発生した東日本大震災や熊本地震を踏まえ、総合的な復旧・復興支援の場として利用される広域防災拠点としての早期整備が望まれている。							
	当地区の社会経済情勢	当公園の周辺は、南部に山口県を代表する工業地帯、北部・東部に住宅地、西部に中心市街地があり、工業地帯との緩衝帯としての役割や、住民が活動拠点として利用する価値の高い公園である。 また周辺には小学校や高校等の多くの文教施設があり、児童も多く、日常的にスポーツ・レクリエーションをする上で欠かすことのできない公園である。							
	必要性	・ 陸上競技場、水泳場は開設から約45年が経過し老朽化による機能低下が著しく、利用者からも施設の改築更新を求める声が上がっている。 ・ バリアフリー未対応施設、慢性的な駐車場不足などの利便性低い箇所の改善を行う必要がある。 ・ 広域防災拠点としての防災機能強化を図る必要がある。	中項目評価	大項目評価	a b				
	適時性	・ 東緑地メインエントランスの整備と並行し、主要施設に繋がる幹線園路のバリアフリー化を進める必要がある。 ・ いつ発生するか予測できない災害に対して市民の安全を守るため、広域防災拠点としての機能整備を実施する必要がある。	中項目評価	大項目評価	a b A B C				
地元の推進体制等の状況及び地元の意向	【地元の推進体制等の状況】 ・ 周南市都市計画マスタープランに基づき、周南市の広域的な核となる公園として相応しい施設整備や、適切な土地利用を図るため、昨年度事業地の用途地域を第一種中高層住居専用地域、第一種住居地域から第二種住居地域に変更した。当案の縦覧等の手続きの際も施設整備にあたっての反対意見等はなかった。 ・ 緑の基本計画策定時に開催したワークショップでは、周南緑地の施設充実を要望する具体的な意見も挙げられており、市内団体からは陸上競技場の改修、水泳場の改修(公認50mプール)等の競技機能の充実について要望があり、事業の推進に協力的である。 【地元の意向】 周南緑地には下記について求められている。 ・ 日常的に遊び、散策、休憩できる身近で大きな公園 ・ 災害時の避難地や救援活動の拠点となる公園 ・ スポーツ、健康づくりの施設が充実した公園					中項目評価	大項目評価	a b	

2 再評価の視点	事業の投資効果	整備効果発現状況 (H29年度まで) 公園面積83.3haのうち、75.1haを供用しており、緑豊かで良好な自然環境を有し、スポーツ・レクリエーションも行える総合公園として、年間約80万人(過去5年間の平均)の市民に利用されている。																																																												
	費用対効果分析	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">主な項目</th> <th rowspan="2">再評価時 (基準年：H24)</th> <th colspan="2">再評価時</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>全体事業費 (基準年：H29)</th> <th>残事業 (基準年：H29)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">便益 (B)</td> <td>①直接利用価値便益</td> <td>12,792</td> <td>26,485</td> <td>2,433</td> <td></td> </tr> <tr> <td>②間接利用価値(環境価値)</td> <td>15,822</td> <td>20,896</td> <td>1,426</td> <td></td> </tr> <tr> <td>③間接利用価値(防災価値)</td> <td>25,620</td> <td>33,326</td> <td>2,101</td> <td></td> </tr> <tr> <td>④その他の便益</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>総便益</td> <td>54,234</td> <td>80,707</td> <td>5,960</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4">費用 (C)</td> <td>①事業費</td> <td>21,223</td> <td>25,084</td> <td>3,877</td> <td></td> </tr> <tr> <td>②維持管理費</td> <td>12,367</td> <td>15,900</td> <td>840</td> <td></td> </tr> <tr> <td>③その他</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>総費用</td> <td>33,590</td> <td>40,984</td> <td>4,717</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">費用便益比(B/C)</td> <td>1.6</td> <td>2.0</td> <td>1.3</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>【費用対効果分析手法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「改正第4版 大規模公園費用対効果分析手法マニュアル」(平成29年4月:国土交通省都市・地域整備局)により算出している。 ・基準年度は平成29年度である。 <p>【費用対効果分析における特記事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接利用価値…利用者が公園を利用するために支払う移動費用と利用料金により算出される価値 ・間接利用価値…緑地と広場が存在することで、環境・防災面に役立つ価値 ・緑地の考え方 公園整備着手以前より公園整備区域内に存在する自治体等の保有する樹林地等の面積を控除したものを、評価対象公園の緑地面積とする。 	区分	主な項目	再評価時 (基準年：H24)	再評価時		備考	全体事業費 (基準年：H29)	残事業 (基準年：H29)	便益 (B)	①直接利用価値便益	12,792	26,485	2,433		②間接利用価値(環境価値)	15,822	20,896	1,426		③間接利用価値(防災価値)	25,620	33,326	2,101		④その他の便益					総便益	54,234	80,707	5,960		費用 (C)	①事業費	21,223	25,084	3,877		②維持管理費	12,367	15,900	840		③その他					総費用	33,590	40,984	4,717		費用便益比(B/C)		1.6	2.0	1.3
区分	主な項目	再評価時 (基準年：H24)				再評価時			備考																																																					
			全体事業費 (基準年：H29)	残事業 (基準年：H29)																																																										
便益 (B)	①直接利用価値便益	12,792	26,485	2,433																																																										
	②間接利用価値(環境価値)	15,822	20,896	1,426																																																										
	③間接利用価値(防災価値)	25,620	33,326	2,101																																																										
	④その他の便益																																																													
	総便益	54,234	80,707	5,960																																																										
費用 (C)	①事業費	21,223	25,084	3,877																																																										
	②維持管理費	12,367	15,900	840																																																										
	③その他																																																													
	総費用	33,590	40,984	4,717																																																										
費用便益比(B/C)		1.6	2.0	1.3																																																										
貨幣価値化困難な便益	<p>【プラス 要因】</p> <p>○幅広い市民利用の増加および大規模大会等誘致による地元経済効果 陸上競技場を幅広い市民が多目的に利活用できるよう改修し、陸上競技場以外の用途での利用も増える。 プールの機能向上(競技用公認プールへ改修)により、広域的な大会の誘致が可能となる。</p> <p>○交通事故減少価値 児童の交通事故原因の一つとして、安全で快適な遊び場及び運動広場の不足があげられている。本公園の近隣には、周南市内の中でも生徒数が多い秋月小学校や周陽小学校等があり、児童数の多い地域であるといえる。 これらの状況を踏まえ、本公園内の広場やレクリエーション施設を活用することにより、地域の遊び場・運動広場を確保することで、児童及び青少年の路上遊戯等による交通事故防止が図られる。</p> <p>【マイナス 要因】</p> <p>○工事実施に伴う振動・騒音等の発生 ○改築工事に伴う施設の利用休止期間発生</p>																																																													
(3)事業の進捗状況及び今後の見通し	事業進捗の現状	<ul style="list-style-type: none"> ・平成元年より周南地域の中核となる公園として整備を実施。 ・H24年度末で用地(旧徳山自動車学校跡地)の取得を完了し、メインエントランスを整備中。 ・これまでに多目的体育館、連絡歩道橋、大型複合遊具設置広場、全天候型人工芝庭球場、野球場改修等の整備を行い、現在75.1haの供用を開始している。 ・施設整備について、市内関係団体と慎重に協議を重ねてきた結果、調整に時間を要したため事業進捗に遅れが生じている。 																																																												
	事業進捗の今後の見通し	<p>メインエントランス完成後は、老朽化した運動施設(水泳場・陸上競技場)の改築及び修繕整備を計画的に進める。それらの施設整備に合わせ広域防災拠点として非常用便所、耐震性貯水槽などの防災設備の充実を図る。 また、各施設のユニバーサルデザイン化についても推進し、平成34年度までの完成を目指す。</p>																																																												
	事業計画変更の必要性	<p>【事業計画変更の必要性の有無】 有 (無)</p> <p>【事業計画変更の理由及び内容】</p>																																																												

2 再評価の視点	(4) コスト削減・代替案等の可能性	<p>コスト削減</p> <p>【コスト削減の検討状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・良質な建設発生土等は現場で再利用、または他工事へ流用する等、資源リサイクルを行い建設費の削減を図っている。 ・植栽地におけるマルチング材の敷設、植栽部への灌水ホースの設置によりランニングコストの削減を図っている。 	<table border="1"> <tr> <td>中項目評価</td> <td>大項目評価</td> </tr> <tr> <td>a・b</td> <td rowspan="2">A ・ B ・ C</td> </tr> <tr> <td>中項目評価</td> </tr> <tr> <td>a・b</td> <td></td> </tr> </table>	中項目評価	大項目評価	a・b	A ・ B ・ C	中項目評価	a・b	
	中項目評価	大項目評価								
	a・b	A ・ B ・ C								
中項目評価										
a・b										
(5) 環境への影響と配慮	<p>【環境への影響事項：動植物、地形・地質、歴史文化、景観等の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周南緑地は、市街地における貴重なビオトープとなっている西緑地、スポーツレクリエーション機能の集積した中央・東緑地、工業地帯に隣接し住工分離による公害防止を目的とした緩衝緑地となる遠石、横浜緑地から構成されており、市街地における緑の骨格となっている。 <p>【環境への配慮】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公園内で発生する伐採木や剪定枝などはチップ化しマルチング材や堆肥として再利用し緑化資源のリサイクルを行っている。 ・樹木観察会、緑化に関する講習会を開催し市民協働による緑化推進に努めている。 	<table border="1"> <tr> <td>大項目評価</td> </tr> <tr> <td>A ・ B ・ C</td> </tr> </table>	大項目評価	A ・ B ・ C						
大項目評価										
A ・ B ・ C										
(6) 地域の立地特性	都市計画区域（公園）									
3 事業実施主体 対応方針	総合評価	<p style="text-align: center;">● 継続 ○ 見直し継続 ○ 中止</p>								
	評価理由	<p>周南市域のスポーツレクリエーション拠点として更なる魅力向上のために、老朽化した水泳場や陸上競技場を改築更新し、不足している駐車場を確保する必要がある。また公園全体の機能充実を図るためユニバーサルデザイン化を推進する必要がある。</p> <p>さらに広域防災拠点として、良好な立地を生かし、災害時に必要な防災公園としての機能を十分に発揮するため、早期に防災施設の整備を進め、事業継続する必要がある。</p>								
	備考									

周南緑地 都市公園事業

S = 1 : 10,000



至 下関

国道 2 号

至 岩国

多目的グラウンド

東緑地

中央緑地

水泳場

メインエントランス

西緑地

駐車場

陸上競技場

多目的体育館

遊具広場

サッカー場

野球場

テニス場

駐車場

凡 例

- 公園区域
- 供用区域
- 残 事 業

周南緑地

県道 下松新南陽線

横浜緑地

遠石緑地

県道 徳山下松線